

めぐみイエス・キリスト教会

2023年10月29日(日)第五主日礼拝

午前10時より

週報「通算第680号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌45「十字架の血に」 p. 64

【交読文】 No.35 詩篇第110篇 p. 907

【賛美Ⅱ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【使徒信条】

【主の祈り】

【先々週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「ラザロ」

【聖書朗読】 ルカの福音書2章36節～39節(新約p. 112上段)

【礼拝説教】 《女預言者アンナ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書2章36節～39節)

2:36 また、アシェル族のペヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代の後、七年間夫とともに暮らしたが、

2:37 やもめとなり、八十四歳になっていた。彼女は宮を離れず、断食と祈りをもって、夜も昼も神に仕えていた。

2:38 ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝を捧げ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った。

2:39 両親は、主の律法にしたがってすべてのことを成し遂げたので、ガリラヤの自分たちの町ナザレに帰って行った。

●ポイント1.「アシェル(アセル)族のペヌエル」と「ハンナ」とは？

■アシェル族とは、「幸福な・祝福された」という意味。ヤコブの第8子で、レアの女奴隷ジルパが産んだ2番目の子。アシェルは4男1女の父となった。その子孫の末裔ペヌエルとは、「神の顔」という意味。

■アンナ「恵み」という意味のヘブル語「ハツナー」のギリシヤ語形。7年間の結婚生活の後やもめとなり、幼子イエスに出会った時は84歳であった。日夜宮で断食と祈りに専心していた彼女は、女預言者として、神に感謝をささげ、敬虔な人々に、イエスについて語っていた。

●ポイント2.「東方の三博士の訪問」と「エジプト逃避行」とは？

※マタイの福音書2章9節～14節「エルサレムから」 (新約p.2下段)

2:9 博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。

2:10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

2:11 それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

2:12 彼らは夢で、ヘロデのところへ戻らないようにと警告されたので、別の道から自分の国に帰って行った。

2:13 彼らが帰って行くと、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って幼子とその母を連れてエジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」

2:14 そこでヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに逃れ、ヘロデが死ぬまでそこにいた。

●ポイント3.「エジプトからナザレ」へ。

※マタイの福音書2章19節～23節「ヘロデの死後に」 (新約p.3下段)

◎先々週の礼拝メッセージ【神の人シメオン】

《この場面は、幼子イエスに割礼を授ける為に、ヨセフとマリアが、エルサレムの宮に入って来た時に起こった出来事です。出来事は二つで、一つは「正しい人シメオン」、そしてもう一つは、「女預言者アンナ」の事です。実は、この二つの出来事は、神様が用意された、両親の為のしるしなのです。この時には、幼子イエスはまだ割礼を授かってはいません。授かる前に、神様はしるしを用意されたのです。

シメオンは聖霊によって、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、と、告げられていました。その日、シメオンが御霊に導かれて宮に入りますと同時に、ヨセフとマリアが幼子イエスを連れて入って来たのです。神様のご計画は、このように何時も絶妙のタイミングなのです。遅くもなく早くもありません。このことから、世界の歴史の背後には、神様の大きな摂理と、御手を強く感じます。

シメオンは、幼子イエスを腕に抱き、神を誉め讃えて言いました。「主よ。今こそあなたは、お言葉通り、しもべを安らかに去らせて下さいます。私の目があなたの御救いを見たからです。万民の前に備えられた救いを。異邦人を照らす啓示の光、イスラエルの栄光を。」

この言葉は、まさしく、今彼が抱いている幼子イエスこそ、真の救い主であることを、高らかに宣言しているのです。そして、シメオンは、自分に起こったこと、また幼子について、聖霊によって与えられたことを、ヨセフとマリアに語りました。そして、マリアに預言しました。

「ご覧なさい。この子はイスラエルの民を二つに分けてしまいます。ある者は信じて救われ、ある者は信じないで滅ぼされます。また、必ず反対する者が起こされるでしょう。この子の為に、あなたは刀で胸が刺し貫かれるような思いをしなければなりません。(現代訳)」と。

この言葉は、この時点から、約33年半年後に、同じく聖都エルサレムにおいて、主イエスの十字架上に、成就することになります。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、11月5日(日)です。通常通り行ないます。